

認知症パートナー講座、キャラバン・メイトスキルアップ研修 及びテキスト作成ワーキングについて

1. 経緯と進捗状況

現在、本市における認知症サポーターの数は7万人を超え、認知症に関する正しい知識と理解が広がってきている。これまでは、認知症サポーターに特別な役割を求めてきたわけではなく、認知症に関する正しい知識を身に付けることで、認知症の人やその家族を見守る地域の応援者となり、認知症になっても住みやすい地域づくりを目指すことを目的に講座が実施されてきた。

国では、新オレンジプランの改訂に伴い、今後は、サポーターを養成するだけでなく、認知症の人が安心して暮らせるまちづくりを推進するために、さまざまな場面で活躍してもらえる人を「育成」することへ重点を置くこととしている。そのため、今年度、認知症の人の気持ちに寄り添い、一緒に活動するサポーターを育成するための講座を開催するにあたり、平成30年7月から全4回のワーキングを行い、ワーキングの構成メンバーから意見を聴取し、講座内容及び講座で使用するテキストについて検討を重ねてきた。

当初は、従来からある「認知症サポーター養成講座」の上級の講座という位置付けの「(仮称)認知症サポーターステップアップ講座」として話し合いを始めたが、認知症に関する専門的な医学的知識を学ぶことよりも、より認知症の人の気持ちに寄り添えるサポーターを養成するための講座として、本市独自のテキストを作成し、名称も「認知症パートナー講座」と変更した。

上記のプロセスを経て平成31年2月5日(火)に「認知症パートナー講座」、同じく2月21日(木)に「キャラバン・メイトスキルアップ研修」を開催した。講師についてはワーキングの参加メンバーから選定し、テキストについては作成したものを使用した。

2. 講座等概要

(1)「テキスト作成ワーキング」概要

- ①日 程 平成30年7月18日(水)、平成30年9月26日(水)
平成30年11月29日(木)、平成31年1月31日(木)
- ②参加者 20名(認知症当事者、家族、医師、認知症介護研究・研修仙台センター、地区社協、認知症介護指導者、若年性認知症RBA相談室、地域包括支援センター職員、区役所・総合支所職員、地域包括ケア推進課職員)
- ③内 容 ワーキングにて参加者から意見を聴取し、検討を重ね、本市独自のパートナー講座用テキストを作成した。(資料1-①)

(2) 「認知症パートナー講座」概要

①日時 平成31年2月5日(火) 13:30~16:30

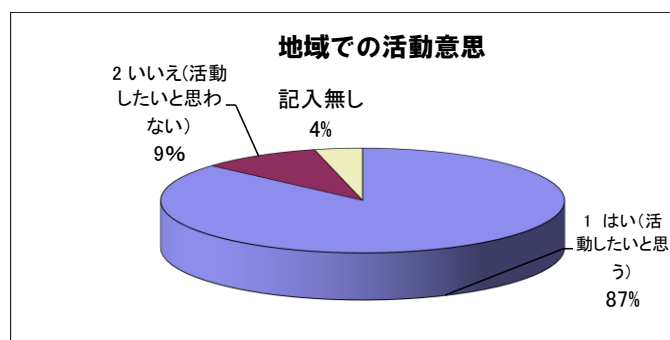
②対象 市内の認知症サポーター養成講座修了者等(60名)

③講座内容 認知症と診断された人に寄り添える「パートナー」となるため、認知症当事者(経験専門家)の想いに耳を傾け、何を求めているのか知り、「認知症の人と一緒に行動できる理想のサポーター」について、グループワークを通して検討・意見交換をした。さらに、仙台市にある社会資源や、講座修了後の活動に繋がる場所について情報提供を行った。

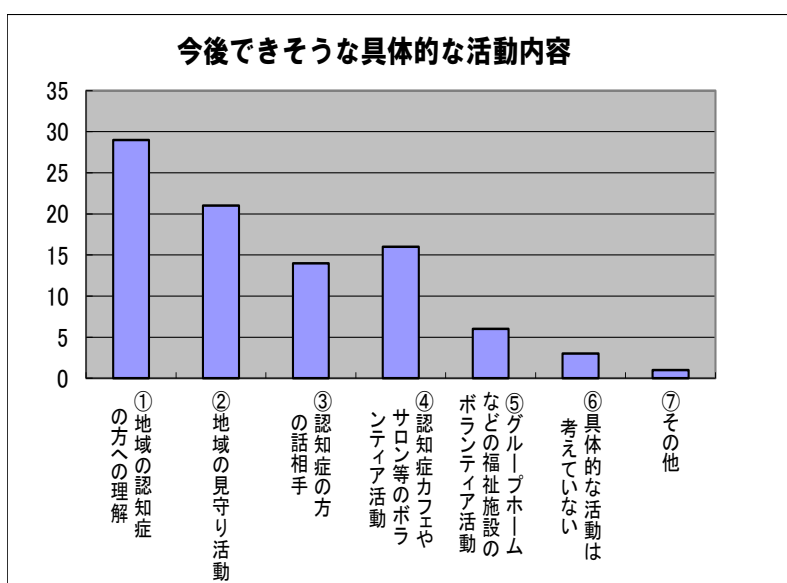
参加者は20代~80代以上と様々で、職業は無職の方、福祉、医療関係職員が多かった。講座の理解度については、およそ9割が5段階中4以上の評価で、「当事者の生の声を聞けてとても良かった」「グループワークによって理解を深められた」など好意的な反応が大多数だった。一方で、「この講座の目的がよく理解できない」という意見もあり、次年度以降、内容について検討を継続する必要性も感じた。

【修了後アンケートから抜粋】

①認知症サポーターとして地域で活動したいと思うか	
	回答数
1 はい(活動したいと思う)	45
2 いいえ(活動したいと思わない)	5
記入無し	2
計	52



②「はい」と答えた方は具体的にどのような活動ができると思うか。(複数回答)	
1 地域の認知症の方への理解	29
2 地域の見守り活動	21
3 認知症の方の話相手	14
4 認知症カフェやサロン等のボランティア活動	16
5 グループホームなどの福祉施設ボランティア活動	6
6 具体的な活動は考えていない	3
7 その他	1
計	90



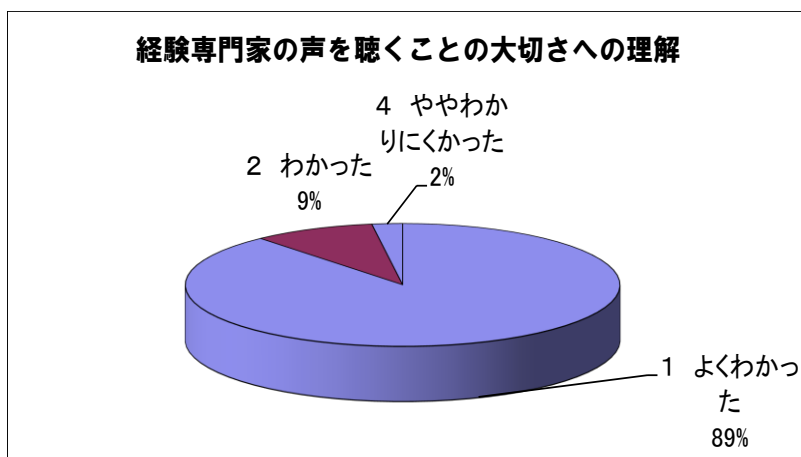
(3)「キャラバン・メイトスキルアップ研修」概要

- ①日時 平成31年2月21日(木) 13:30~16:30
- ②対象 キャラバン・メイトである地域包括支援センター職員、認知症介護指導者等
- ③講座内容 グループワークや、認知症当事者(経験専門家)の話を通して、「認知症パートナー」やその活動について理解し、今後の認知症パートナー講座の開催・運営方法を学んでもらった。

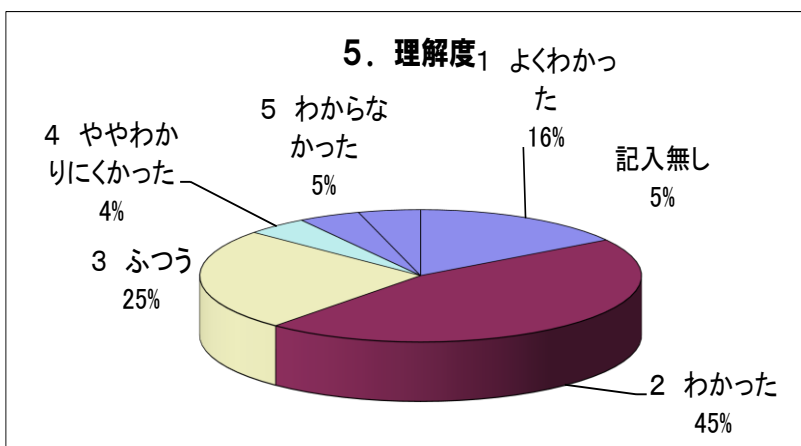
講座の理解度及び、認知症当事者(経験専門家)の声を聴くことの大切さへの理解については、共におよそ9割が5段階中4以上の評価で、「本人に寄り添いながら支援できるような講座だったのでためになった」「当事者の話が参考になった」などの意見をいただいた。一方で、「目的と内容がずれているように感じた」「趣旨が見えにくかった」という意見もあり、特に修了後のアンケートで、認知症パートナー講座修了者の活動場所について理解できたか?との問いに「分かった」と回答したのが5割程度であったため、内容については次年度以降、さらなる検討を要する必要性を感じた。

【修了後アンケートより抜粋】

①経験専門家(認知症の当事者)の声を聴くことの大切さを理解できましたか?	
	回答数
1 よくわかった	39
2 わかった	4
3 ふつう	0
4 ややわかりにくかった	1
5 わからなかった	0
計	44



②認知症パートナー講座修了者の活動の場所について理解できましたか?	
1 よくわかった	5
2 わかった	16
3 ふつう	14
4 ややわかりにくかった	6
5 わからなかった	2
記入無し	1
計	44



3. 今後の取組みについて

「認知症パートナー講座」については、31年度以降は地域包括支援センター職員や、認知症介護指導者に講師をしてもらう予定であり、その指導者になるための研修「キャラバン・メイトスキルアップ研修」について引き続き実施する。使用するテキストについては、ワーキングで聴取した意見等を踏まえ、編集・製本化し講座で使用したが、30年度末には、講座後に出された意見等を踏まえ、新たにデザインし直す（PDFファイルにて30年度末納品予定）。完成後、ホームページに掲載し任意にダウンロードできるようにする。

「認知症パートナー講座」受講後に、仙台市ボランティアセンター（資料1-②）やボランティアを希望する認知症カフェ等を紹介し、活動希望のパートナーと受入側のマッチングがスムーズにいくよう橋渡しをする。